

全国



第2066号

ぜんこくしぎかいじゅんぱう

市議会旬報

平成30年 11月15日
(2018年)

毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03(3262)5234
旬報 TEL 03(3262)2309
発行人 滝本 純生
<http://www.si-gichokai.jp>

代替税源なき 車体課税減税に反対

国と地方協議の場で山田会長

続いて、
上田清司
全国知事
会会長が
「31年10

正副会長
復興 希望 前へ
東日本大震災から7年7カ月
釜石 大船渡
陸前高田3市視察
3 ~ 10面

国と地方の協議の場（平成30年度第2回）が、10月15日に首相官邸で開かれ、山田一仁会長（札幌市議会議長）ら地方六団体の代表者が出席した。山田会長は「自動車税は、地方の基幹的な税であり、代替税源がなければ見直しは行わないこと」を強く要望した。

会議冒頭、安倍晋三内閣総理大臣が「地方創生、地方分権改革の推進は、政権発足時からの最重要課題。地方こそが、これからの成長の主役である。自らの発想による地方創



協議の場の模様

生に向けた挑戦、工夫を凝らした地域づくりを、情報面・人材面・財政面から積極的に後押ししていく。全国で自然災害が相次ぐ中、安心して暮らせるまちづくりに取り組む。地方の声に徹底して耳を傾け、活力ある地方の創生に力強く政策を推進していく」などと挨拶。

・2兆円が地方分の財源であることを、特段、留意されたい」などと述べた。

協議事項は「地方創生及び地方分権改革の推進について」。山田会長は、

「意見交換では、山田会長は社会インフラについて「地方自治体では、公共施設、橋梁の老朽化が

山田会長



「消費税率の引き上げに伴い、自動車税の負担水準を軽減する」ことを強く要望した。また、地方の財政状況が厳しい中、地方の財政に与える影響を軽減するよう、積極的に後押ししていく」との発言があった。

「消費税率の引き上げに伴い、自動車税の負担水準を軽減する」ことを強く要望した。また、地方の財政状況が厳しい中、地方の財政に与える影響を軽減するよう、積極的に後押ししていく」との発言があった。

問題。26年に総務省から要請された公共施設等適正管理計画を全自治体で作っているが、財源の見通しが無いのが現状ではないか。この問題に新たな経済対策として取り組まなければならない」と要望。地域医療についても「人口5万人以下の市が多い。これからどう生き延びるかという課題の中に、インフラ整備もあるが、特に医療関係の問題がある。地域包括ケアシステムに取り組んでいるが、現状医師が不足している。何とか解消できるような、積極的な対策を講じられた」と述べた。根本匠厚生労働大臣から、地域医療について「医師不足の問題はかねてから大きな課題。地方団体の声も踏

問題。26年に総務省から要請された公共施設等適正管理計画を全自治体で作っているが、財源の見通しが無いのが現状ではないか。この問題に新たな経済対策として取り組まなければならない」と要望。地域医療についても「人口5万人以下の市が多い。これからどう生き延びるかという課題の中に、インフラ整備もあるが、特に医療関係の問題がある。地域包括ケアシステムに取り組んでいるが、現状医師が不足している。何とか解消できるような、積極的な対策を講じられた」と述べた。根本匠厚生労働大臣から、地域医療について「医師不足の問題はかねてから大きな課題。地方団体の声も踏

【2面へ続く】



挨拶する石倉会長

全国高速自動車道市議会協議会（会長 石倉彰 魚津市議会議長）は10月24日、都内で平成30年度第1回理事会を開催し、高速道路網の早期完成、暫定2車線の4車線化などを求め要望することを決めた。

会議冒頭、石倉会長から、豪雨や地震など、頻発する自然災害へのお見舞いが述べられた後「高

協 高速道路網の早期完成 高 暫定2車線の4車線化を 理 事 会



監査結果を報告する佐藤監事

速道路は地域経済の発展や広域緊急医療に資するほか、自然災害の際の救援、復旧活動を支える緊急輸送路としての役目を果たしている。しかし、いまだ未供用区間があり、本来の効果が十分に発揮されていないなどの課題があり、高速道路網の建設と整備促進等に積極的な要望活動を展開していく必要がある」との挨拶

【1面から続く】
まえ、今後、取り組みの具体化を進めていく」との発言があった。

なお、地方六団体から

は「地方創生及び地方分権改革の推進等について」と題する資料を提出している（項目を抜粋したものを下掲）。当日の



阿達国交大臣政務官

があった。続いて、国土交通省道路局高速道路課の渡邊良一高速道路事業調整官から「高速道路を取り巻く最近の情勢について」と題し、①高速道路の整備状況とストック効果②生産性革命プロジェクト③地域の活性化と豊かな暮らしの実現④国民の安全・安心の確保について説明があった。

協議では、29年度決算について、佐藤和好監事

会議資料は、内閣官房ホームページ（<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyougjinoba/>）に掲載されている。後日、

（大崎市議会議長）から監査結果の報告があり、これを了承。31年2月6日開催の第45回定期総会に提出することとした。

続いて、高速道路建設・整備促進等に関する要望書を原案の通り決定した。要望書は①建設促進②高速道路ネットワークの更なる機能向上と最適利用の推進③安全対策の推進④料金制度の4項目を大きな柱としている（要望書は本会ホームページに掲載）。要望活動は地元選出の国会議員らに行うこととした。なお、役員は理事会終了後と翌25日に政府要職などに要望活動を行うこととした。

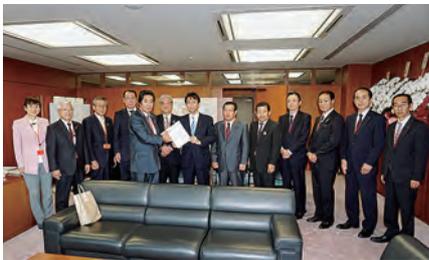
国土交通大臣政務官らに要望書を手交

会議終了後、正副会長

国会報告と議事録も掲載される。

地方創生及び地方分権改革の推進等について

▽地方創生の実現に必要な



工藤国交大臣政務官

・ 監事・相談役は、阿達雅志国土交通大臣政務官、工藤彰三国土交通大臣政務官らに面談し、要望書を手交の上、要望、意見交換を行った。

特に、要望書の①では、高規格幹線道路網1万4000kmの早期整備と暫定2車線区間の4車線化②では、既存の道路の運用改善や改良などにより、道路ネットワークの機能を最大限発揮させること

な地方の安定的財源の確保▽持続可能な社会保障の基盤づくり▽次世代を担う「人づくり」▽人口減少に対応したまちづく

では、料金制度の適切な見直しを要望した。また、25日には、加藤勝信自由民主党総務会長、宮腰光寛内閣府特命担当大臣、衛藤征士郎高速道路建設推進議員連盟会長、細田博之高速道路建設推進議員連盟幹事長らに要望、意見交換を行った。



理事会の様相

り▽防災・減災対策の推進と強靱な国土づくり▽地方分権改革の着実な推進▽地方の税財源の確保・充実（項目のみ抜粋）

復興 希望 前へ

東日本大震災から7年7カ月

釜石 大船渡 陸前高田 3市を正副会長視察



海に向かって東日本大震災の犠牲者に黙とうする正副会長、陸前高田市議長＝10月12日、陸前高田市「奇跡の一本松」

山田一仁会長（札幌市議会議長）ら本会正副会長は、東日本大震災から7年7カ月を迎えた10月11日と12日の2日間、震災・大津波で多くの犠牲者が出た岩手県沿岸南部の釜石、大船渡、陸前高田3市の被災地の復興状況を視察した。毎年の総会決議や国への要望活動に向け定期的に被災地を訪れている。復興の進捗に

は3市で差があったが、津波浸水高を回避するかさ上げ地造成などで重機は懸命に動き続けている。山田会長は一日も早い復興への全力支援を誓い、陸前高田市の「奇跡の一本松」の前で、正副会長たちは海に向かって東日本大震災の犠牲者に黙とうをささげ、冥福を祈った。

本大会開催へ準備が進む釜石。まちづくり・商店街再生へ民間と連携した大船渡では、ライブハウスで若者たちが演奏を聴いてエネルギーに楽しむ。陸前高田で居酒屋を営む夫婦は、三陸のおいしい海の幸をみんなに食べてもらおうと頑張っている。子どもたち、若者たち、大人たちの笑顔、エネルギーが、復興へ希望を運ぶ。前へ。

釜石市
ラグビーW杯成功へ
復興を全世界に発信

- 釜石市の被害**
- 死亡者・行方不明者1064人
 - 家屋被害 4704戸
 - 津波最大波 9.3m（気象庁が推定した津波の高さ）土木学会調査団資料では最大19.3m

盛岡からバスで釜石の



釜石市立鶴住居小学校の子どもたち 【写真提供＝釜石市】

市街地に入ると、沿道に来年のラグビーW杯や「釜石にはラグビーがある」「鉄と魚とラグビーのまち釜石を応援します」というのぼりや看板が目につく。W杯までのカウントダウンボードもあり、まちをあげて機運醸成に力を入れている。一方で、JR釜石駅近く



2019年ラグビーW杯のカウントダウンボード

の道路には「これよの先津波浸水想定区域」と記されたボードが掲示され

【4面へ続く】

【3面から続く】

ているほか、仮設住宅も見えてきた。

最初の視察場所は、津波で一帯が流された鶴住居(うのすまい)地区。山に囲まれ、海に面したところで、全壊して高台に移設され、昨年春に開校した釜石市立鶴住居小学校・釜石東中学校で市から説明を受けた。児童生徒は離れた仮設住宅からスクールバスで登下校。東中学校舎には「絆 不死鳥!東中」との横断幕がかかり、ここからは地区全体が見渡せる。土地造成などで重機が動き、戸建て住宅が建ち始めている。震災前、この地区に



釜石市鶴住居地区の説明

は約1400世帯が住んでいたが、6割に当たる850世帯が被災。国費252億円をかけた土地区画整理事業(49・2ヘクタール)と津波復興拠点整備事業(16・9ヘクタール)で、土地を平均1・7mかさ上げして市営復興公営住宅(計120戸)を建設するなど住宅地を再生し、国道45号の振り替え、沿道の商業施設配置を行う。30年度までの事業期間で宅地造成は完了の予定で、31年度以降に換地処分の手続



釜石市鶴住居地区の整備状況。右奥が釜石鶴住居復興スタジアム

に新規完成、開通の運びだ。祈りのパーク、津波伝承施設、観光交流施設、市民体育館の整備も進んでいる。震災前、この地区には土地所有者の5割が住んでいた。アンケートに3割は戻りたいとの意向を示したが、2割は未定・分からないと回答。「2割の住民に戻ってもらうことが課題」という。鶴住居小学校、釜石東中学校の跡地に

きに入る。復興住宅は入居済みだが、復興を待たずに区域外で再建した人たちもいるという。鶴住居川河口の水門は半分完成。震災前6・4mだった防潮堤は2・5倍の14・5mの高さで整備しており、W杯前に概成させる計画。被災したJR山田線鶴住居駅も30年度中



復興が進む鶴住居地区全景。手前左が釜石鶴住居復興スタジアム。中央の高台部に鶴住居小学校・釜石東中学校が併設されている

【写真提供=釜石市】

①地元の森林資源を活用したウッドシート②耐震性貯水槽・貯留槽など万への備え③ハイブリッド天然芝活用によるハイパフォーマンス可能なフィールド④自然と調和した景観がある。

復興が進む鶴住居地区全景。手前左が釜石鶴住居復興スタジアム。中央の高台部に鶴住居小学校・釜石東中学校が併設されている

は、ラグビーW杯の試合会場となる釜石鶴住居復興スタジアムが建設された。ラグビーの元プロ選手で釜石市ラグビーワールドカップ2019推進本部事務局の長田剛主任が説明してくれた。W杯日本大会は来年9月20日から11月2日にかけて、釜石など全国12都市で開催。日本など20チームが参加し、釜石では9月25

日のフィジー対ウルグアイ、10月13日のナミビア対敗者復活予選優勝チームの2試合が行われる。釜石のスタジアムは、9万平方メートルの敷地に球技競技場(メイングラウンド、サブグラウンド)、3階建ての管理事務棟などがあり、事業費は約49億円。観客席は常設6000席で、W杯のときは仮設シートを1万席足して、1万6000席にする。スタジアムの特徴として



スタジアムで説明する長田主任(右端)

【5面へ続く】

【4面から続く】

き市職員で採用された。「毎日めっちゃくちゃ楽しい。ぜひやりたかった仕事なので、釜石のためにもなるし、ラグビーにも携われる」と笑顔で話す。佐々木義昭議長



震災から7年7カ月たち、官民一体となって復

大船渡市
被災地に
ライブハウス

大船渡市の被害

- 死亡者・行方不明者 419人
- 家屋被害 5572世帯
- 津波浸水高(最大) 23.8m

大船渡では、高台に新

地区消防組合(大船渡市、住田町)消防本部・大船渡消防署を視察。高機能デジタル消防指令センターを整備したのが特色で、119番位置情報通知システムや、津波襲来を教訓にした高所監視カメラ設置、

現場にいる隊員の眼鏡中央に埋め込んだ小型カメラによる画像伝送システム、メール119番などで、通話受付から現場到着までの時間短縮、現場活動支援強化、市民サーブ

ビスが徹底された。高所カメラは湾内の状況が常に確認できるほか、浸水区域に残っている消防車両がないかどうか把握できる日本初の消防団車両も含めた車両動態システムも導入。県内消防施

次視察場所、中心市街地の駅周辺地区は、津波ですべて流されたところ。まささらな状況から、南北2キロ、東西1キロ弱の約34ヘ



左から大船渡、釜石、盛岡、陸前高田の岩手4市議長



隊員制服の肩に「友」のワッペン



大船渡地区消防組合消防本部・大船渡消防署での説明

設で唯一の水難救助訓練のための屋内プールもある。展示ホールには震災時、毎晩遅くまでの作戦会議で使用した職員手作りの市街地図面が掲示されていた。



東日本大震災の捜索活動作戦会議で使われた、職員手作りの図面や消防活動の写真展示

て青森県八戸から宮城県仙台台まで359キロの三陸沿岸道路も来年でき

旧・復興事業に取り組み、今では復興公営住宅、防潮堤、公園ができ、何とか元の震災前の街並みに戻ってきたかなと思う。来年のラグビーワールドカップを見据えて内陸から釜石の復興道路、そして

る。あのときから心待ちにしていた市の復旧・復興に何とか手の届くところまで来たと思う。これもひとえに、国・県はもちろん、市内外の自治体、民間の皆さんのおかげと心から感謝している。



山崎秀樹副市長

復興公営住宅、宅地造成も本年度末にはほぼ完了する見込みだが、いまだに500世帯ぐらいの方

々が仮設住宅・みなし住宅での不自由な暮らしを余儀なくされている。住まいの再建を含め復興完了に向けて努力しなければならぬ。次の世代に誇りの持てる取り組みをし、自立的なまちづくりをしていく。W杯は全国から

へ」。復興の姿を見ていただくほか、何よりも釜石に住む子どもたち、市民の方々に夢と希望を与えるために開催するんだという思いで市民一丸となって成功に向けて取り組んでいる。



【提供=釜石市】

クータルで区画整理事業を行い、中核部の約10ヘクタールを津波復興拠点

【6面へ続く】

日の出をモチーフに釜石の夜明けは近い!!

【5面から続く】

整備事業として市で先行して土地を買い取り、商業・業務区域に整備した。2つの事業の事業費総額は約267億円。沿岸被災地で約10ヘクタールの商業地を整備するのは最大規模という。JR大船渡線は被災後、BRT(バス高速輸送システム)が走り、鉄路は廃止。海沿いの防潮堤は震災前の3mから7.5mの高さにし、湾の入り口にあった5mの防波堤は11.5mまで上げ、国内最大という。BRTより海側は人が住んではいけない区域で、山側は整備が終わり



大船渡駅周辺地区の整備状況説明

この一角にある市防災観光交流センターは、人々をつなげ・人々を賑わい・憩いを生み、津波災害から人々を守ることを



「津波水深ここまで」と表記された屋外大階段

ば人が住んでもいい地区で、住宅をこれから建ててもらおう。土地区画整理の6割は使用が始まっており、9割前後は埋まるという。津波復興拠点整備事業は8つの街区を設け、一部を除き整備が終了している。



震災・大津波の前と後の大船渡町の空撮写真の展示

避難所の役割を果たし、毛布、食料などを保管。最大500人くらいまで屋上に逃げられる。この大階段の中ほどには押し寄せた津波の高さを示す「津波水深ここまで」との表示がある。



キャッセン大船渡 (防災観光交流センター2階展望デッキから撮影)

どが設計コンセプト。1階が観光部門で、市の観光の情報発信、案内の役割を果たす。2階は学びと交流の場で、地元の子育て支援のグループが運営しており、子どもたちが遊んだり、いろいろな会合に使ったりする。津波体験をつなぐ伝承スペースもある。3階は大船渡湾を望む憩いの場。外には多目的広場があり、万が一の時は屋外大階段を上がって屋上広場に避難してもらおう。津波が来たら基本的には山の方に逃げてもらうが、逃げ遅れた人たちのために

くりは官民連携で実施。8つの街区にスーパーやショッピングセンター、飲食・物販など約60の店舗が並ぶ「キャッセン大船渡」エリアを歩いた。「きゃっせん」は、地元言葉で「いらっしやい」。市が設定した20年〜40年の定期借地権の場所を民間事業者が毎年地代を支払いながら利用し、持続的なまちづくりを行っている。市と商工会議所、地元有力企業、地銀などが出資するまちづくり会社「キャッセン大船渡」が、景観、安全・安心、



キャッセン大船渡の街区・店舗を説明する臂さん

賑わいの持続といった全体のマネジメントを事業者、行政との公民連携で行うとともに、自らが一定地区の借地人となり、被災した小規模事業者たちから賃料をもらい、テナント型商業施設を運営している。

キャッセン大船渡取締役・大船渡駅周辺地区タウンマネジャーの臂徹(ひじ・とおる)さんは、商業施設の特徴をこう話す。「大船渡地区は、県管理重要港湾大船渡港の後背に発展したまちであり、船員や港湾従事者で昔からにぎわう、いわゆるナイトタイムエコノミーが活発だったところであるため、その名残を感じられるような飲食店を集積して整備している。

ライプハウス建設は、東日本大震災の被災地域にライプハウスをつくらうという「東北ライプ大作戦」プロジェクトの一環。大船渡のほか、石巻宮古にも造られた。入場

その中に、新しい機能として、ライプハウスもある。平日の日中時間帯は30代から60代のご婦人が主な客層だが、週末になると、結構いろいろな若い方、いわゆるライプキッズと言われるような子たちがこのライプハウスに集って、別の顔を持つというところもある」



キャッセン大船渡「かもめテラス」。さいとう製菓の総本店で、コンセプトは「まちの縁側」。菓子販売や菓子作り体験、見学もできるファクトリーショップ



ライブ演奏を楽しむ若者たち。ライブハウス「KESEN ROCK FREAKS OFUNATO」【写真提供=キャッセン大船渡】



キャッセン大船渡ライブハウス
「KESEN ROCK FREAKS OFUNATO」



川沿いのキャッセン店舗



【6面から続く】

者に寄付金付きの木札を購入してもらい、それに名前を書いて会場の壁に張っている。寄付金は建設費に充てられ、復興の希望へ「ぼくたち、わたしたちのライブハウス」という一体感のある取り組みだ。

エリア内を流れる川は幅20メートル。震災前10mだったのを倍に

拡張し、大水から洪水の際もオーバーフローしないように整備された。高い防潮堤で海が見えづらいため、親水空間を県市、まちづくり会社でデザイン調整して、川に階段護岸を整備し、平場はステップに使い、賑わいの空間を一緒に造った。夏場の日中には、パンツードの子どもたちが泳ぐ場所になっている。入居店舗の65%程度が大船渡、陸前高田で被災さ

キャッセン大船渡の街区

れた事業者で、その再建が主たるプロジェクト。売り上げベースで飲食店、物販店とも健闘しているという。

本日震災から7年と7カ月を迎えた。全国の皆さん、全世界から心温まるご支援をいただきながら、ここまで一歩一歩着実に復興が進んできた。全国市議会議長会には定期的に被災地を視察いただきながらいろいろな部分でサポートをしていただき、感謝します。ここは黒潮の海流で温暖なところ。三陸の海は世界三大漁場の一つであり、水産業が基幹産業で、いまが旬のサンマは本州一の水揚げを誇っている。もう一方で、海に面してお

熊谷昭浩議長



り石灰石が豊富なことからセメント産業が東北で一番の生産量を誇りながら、発展してきた。そうした中、震災で甚大な被害を受けたが、おかげさまで住宅再建は目途が立ち、なりわいも9割以上が再建を果たした。あとは沿岸地域の入り江の被災跡地の活用。もうひとつは、ソフト的な心の復興の取り組みで、まさしくこれから復興の正念場を迎える。支援にこたえられるように復興創生期間に完了するよう一生懸命がんばります。

戸田公明市長



国内外の多くの皆様から暖かい励まし、支援を受けながら、市民一丸となって復興してきました。おかげをもちまして、大船渡の復興も終盤を迎えている。356種類の復興事業を展開し、これまでに210種類の復興事業をすべて終えました。特に感じているのは①中心部の土地区画整理事業でまだ4割残っている土地をできるだけ早く住民に使ってもらうこと②市の中心部以外の被災した部分で、将来また津波が来る可能性があつて住宅建設をせずに市が買入れたところを復興創生期間の2年半の間に行うだけ広く活用すること③震災の復興事業で大きくなった市内の経済規模、市民所得を高いところに軟着陸させながら、次のまち・ひと・しごと創生総合戦略、すなわち高齢化・人口減少、そしてこの時代を乗り越えていく力をつけていくこと④そのあたりに軸足を移しながらしっかりと頑張っていきたい。

【8面へ続く】



手前が今泉地区で、工事中の赤い壁の建物は来年1月下旬から供用開始の気仙小学校。奥は高田地区。

「景色が土の色で、あまり復興しているように見えませんがね」と言われる。まずはかさ上げ工

陸前高田市の被害

- 死亡者・行方不明者 1760人
- 家屋被害 8034世帯
- 津波浸水高 (最大) 17.6m

陸前高田市
松林砂浜復活へ
待たれる賑わい

【7面から続く】

最大17・6mの津波が押し寄せ、一帯がすべて流された海沿いの中心市街地、高田地区。見渡す限りの広大なさら地で重機が動き、10mのかさ上げ工事の真っ最中。復興が進む釜石や大船渡とは明らかに違う景色だ。隣の今泉地区と合わせた約300ヘクタールにも及ぶ総額約1500億円の被災市街地土地区画整理事業で、かさ上げ地や高台造成を行う。12・5mの防潮堤(震災前5・5m)はほぼ整備されたが、市が23年12月に策定した震災復興計画の期間30年度までには、とて

度までには、とて度までも終わらない。32年度までの復興庁存続・国の復興予算期間までに終わることも難しい状況だ。説明した市の幹部は「視察にきた皆さん、『景色が土の色で、あまり復興しているように見えませんがね』と言われる。まずはかさ上げ工



高田地区のかさ上げ工事。右奥は震災遺構で残す旧定住促進住宅

事で計画高までは上がってきている。そこに少しずつ(住宅建設などで)色が付き始めると、復興も進んできたかなと実感できるのでは」と話す。それでも着実に前に進んでいる。被災した市民体育館と温水プールを統合して今春オープンした「総合交流センター」(愛称・夢アリーナたかた)でこの夏、大相撲陸前高田場所が行われ、2800人の観衆が集まった。

学校などの整備も進み、高台に造成した住宅地は、ほとんどが売り出し直後に完売になり、家が建ち始めた。26年10月に入居が始まった災害公営住宅は、買い物しやすいということとで人気がある団地だ。中心市街地の店舗も営業を始めた。岩手県が整備する高田松原津波復興祈念公園には、道の駅が来年夏に一部オープンする。かつてあった7万本の松林も復活へ向け、31年度末までに約4万本の苗木を植え、松林が戻ってくる。人工の砂浜約1キロも造成中で、3年後の夏には高田松原海水浴場として砂浜が復活する予定。運動公園も整備し、かつての賑わいが戻ることが待たれる。



正副会長視察の様子(防潮堤の上)

そのまま保存する。かさ上げ工事中の高田地区にある5階建ての旧定住促進住宅。4階まで津波が押し寄せて壊れ、5階は無傷の状態だ。山側の旧気仙中学校。生徒、教職員全員がいち早く高台部に逃げて無事だった。そして、「奇跡の一本松」。

「復元された『ヒヨロ松君』は昔の姿のまま、私たちに生きる希望と勇気を与えてくれます」とのメッセージが寄せられ、現地に掲示されている。市は一本松の海側にある旧ユースホテルが一本松を津波から守ったとし

7万本あった松の中で1本だけ残った復活のシンボル。残念ながら海水のダメージで枯死したが、震災の記憶を後世に受け継いでいくため、中をくり抜き、モニユメントとして保存している。保存費用1億5000万円は寄付で賄うことにし、目標より多い1億7000万円が集まったという。漫画家の故やなせたかしさんが生前、大津波にしさんが生前、大津波に唯一耐えた松の木に感銘し、「ヒヨロ松君」と命名。保存事業完成式の際「復元された『ヒヨロ松君』は昔の姿のまま、私たちに生きる希望と勇気を与えてくれます」とのメッセージが寄せられ、現地に掲示されている。市は一本松の海側にある旧ユースホテルが一本松を津波から守ったとし



「奇跡の一本松」を思い、やなせたかしさんが描いた「ヒヨロ松君」とメッセージの掲示

【9面へ続く】

【8面から続く】
て、この建物もセツトで保存するよう国と協議している。

JRは被災した大船渡線を鉄路からバス専用道に切り替えるBRTを提案し、BRTバスが動き始めた。市は交通広場を整備し、バスの駅舎「陸前高田駅」も出来た。ただ、専用道路は区間の半分以下で、残りは一般道を走る。利用者は大半が高校生で、鉄路を専用道化して延伸するとともに、利用者を増やすことが課題だ。



バスの陸前高田駅

復興途上の写真や模型が展示されている。千羽鶴とともに慰霊碑のある市の東日本大震災追悼施設で、山田会長が献花し、正副会長、伊藤明彦陸前高田市議会議長が手を合わせた。



慰霊碑に献花する山田会長

伊藤明彦議長



震災から7年7カ月たったが、風化が一番怖い。全国市議会議長会には毎

年総会で震災からの復興を決議いただき、政府などに要望いただいていることに感謝申し上げる。震災前、われわれ沿岸部に住む人間は、内陸部とのいろいろな地域間格差の解消、差別化にしのぎを削ってきた。震災後は県内一体となつて、それぞれ復興という旗印を掲げて、一日でも早い復興と普通の笑顔を取り戻していきたいと一生懸命頑張っています。どうぞ全国市議会議長会の皆さん、今後ぜひご支援、ご協力をお願い申し上げます。

戸羽太市長



まだまだ被災地そのままでの状態のところ非常に多く、復興庁が存続する2020年度まで何

とかしなさいというご指示もいただいているが、いかんせんたぶん日本でやったことがないような大規模な復興工事をしており、まだまだやることがある。災害が起きたときに市議会議員の役割は何なのかということを考えて考える時期と思う。被災したとき、残念ながら議員さんも2人が津波で亡くなった。議員として地域の皆さんのお手伝いをしなきゃいけない、命を守らなきゃいけないという義務感の中からそういう残念なことになつたわけだが、当時議員の皆さんがそれぞれの地域の実情を、道なき道をたどって本部に伝えにきてくださった。私の地域で今こんなことが起こっている、こんなことが課題ですというようなことを教えていただけて本当に助かったのを今でも覚えています。

【10面へ続く】

復興へ決議 本会評議員会

本会は7日開いた第105回評議員会で、東日本大震災からの復旧・復興に関する決議を行った。決議は「東日本大震災の発生から7年以上が経過した。被災自治体においては、迅速な復旧・復興に向けて鋭意努力をして

いるものの、被災者の生活再建、地域産業の再生や公共施設の復旧等に加え、東日本電力福島第一原子力発電所事故に起因する放射性物質による健康問題、除染による除去土壌の中間貯蔵施設への搬入や風評対策等、解決すべき困難な課題が山積している」と指摘。

「国は、種々の支援策の実施により被災地の復旧・復興に尽力されてい

るところであるが、復興の進捗に遅れが生じないよう、被災地の要望をより一層丁寧に酌み取り、被災地の立場と視点に立った迅速かつ柔軟な対応を講じていくことが重要である」とした上で、一日も早い被災地全体の復旧・復興の実現に向け、国に対して東日本大震災からの早期復旧・復興では「被災地の実情に応じた復興交付金の柔軟な運用を図るとともに、復旧・復興事業予算及び震災復興特別交付税等の所要額を確保した上で、復興事業が完了するまでの間の継続的な措置を講ずること」などを実現するよう強く要望。原子力発電所事故災害への対応では「産業振興を更に確実なものとするため、風評被害対策への取組を強化し、風評被害の速やかな終息に努める」ことなどを強く要望する、としている。

【9面から続く】

正副会長は「震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます」としたうえで、次のように話した。

山田一仁会長

復興には差があった。前へ進んでいるところはある程度見えた

が、被災者の方々がまだ仮設住宅などで生活されている現状があり、7年7カ月たってもまだまだ大変だということを実感した。日本では今年、広島、岡山、愛媛で豪雨が、大阪、北海道でも地震があった。毎年視察させてい



ただき、全国市議会議長の総会で決議し、今年もまた国に要望していくが、復興が一刻も早くできるように、被災者が一日も早く元の生活に戻れるように、一生懸命頑張

る。毎年視察させていただき、全国市議会議長の総会で決議し、今年もまた国に要望していくが、復興が一刻も早くできるように、被災者が一日も早く元の生活に戻れるように、一生懸命頑張

つていく。

古川昌俊副会長
(千歳市議長)

3市を見て、都市間の違いが出ている。市の思い、市民の思いをいかに表現するかがこれからの大きな課題。早い復興を願う、国が中心となって面倒をみることを切に願う。住民がいかに自分のまちを再生するんだという気持ちを表現していただければ、応援しがいがある。今後また来てみたいなどというまちななることを望みたい。

森山享大副会長
(桐生市議長)

一歩ずつではあるが、復興が進んでいることを確認させていただいた。それぞれの地域、自治体で差が生じており、できるだけ寄り添う形の復興支援が必要なのではないかと強く感じた。

下村佳弘副会長
(鳥取市議長)

国や国会で復興は進んでいると言いが、来てみて現状がわかった。陸前高田に来た時、これはまだ20年や30年かかるんじゃないかと。中国議学会や県の議長会でも言っていないかきやいけないし、国にも一緒になって要望して、少しでも復興の手助けになるような政策が打てればいいと思った。

天沼久純副会長
(盛岡市議長)

岩手県に視察に来ていただき、ありがとうございます。福島原発以外で一番被害がひどいのはやはり陸前高田で、地区によって被害状況が違うことを見ていただきたいと思います。岩手県市議会になった。岩手県市議会議長会では国への要望事項で震災対策費について継続してほしいというが、32年度までだと陸前高田はできない。継続して考えてもらうよう、

ご協力をお願いしたい。

高木妙副会長
(高知市議長)

震災のときの映像をたくさん見たが、いざその場に自分が立ったとき、子どもたちがどういう思いで逃げたのだろうか、ひしひしと感じるものがあった。私は海抜ゼロメートルのところに住んで

みんなが楽しみ
共感する店に
夫婦居酒屋
陸前高田

昨年6月、陸前高田市の高田地区中心市街地のかさ上げ地で、民間第一号として居酒屋「公友館 俺っ家」が営業を始めた。熊谷浩昭さん、友子さん夫妻が故郷で再起させ、三陸の新鮮な海の幸を提供する。地域を代表する居酒屋「酔い処 俺っ家」を営んでいたが、震災の津波で店舗・自宅が流出・全壊。その後、盛岡市内で「陸前高田

いるので、南海地震を考えた時に他人ごとではない。広大なかさ上げなどを見て、事前復興計画に具体的に取り入れていくよう提案していきたい。

加藤義幸副会長
(岡崎市議長)

改めて被害の大きさを実感した。釜石、大船渡で復興のシンボルとして

俺っ家を営業していた。震災前に閉館し、それまで映画好きのご主人が



「俺っ家」の熊谷夫妻【写真提供=陸前高田市】

よく通っていた陸前高田の映画館「公友館」を店名に加えた。「感動した

市民が集える施設をつくられて、元気の源につながっていくと感した。陸前高田は市街地全域が被災し、一からまちを作り直しており、復興半ばではあるが、とても魅力的なまちになっていくのかなど期待している。一日も早い復興を願う。(議長交代で副会長退任)

り、泣いたり、笑ったり、家族・友達・恋人たちみんなが楽しみ、共感する。そんな店になればいいと名付けました。店の名物は「メカブと生牡蠣(牡蠣浜焼き)」に「秋刀魚つみれ鍋」「三陸の鮭・イクラ」(紅葉漬)の郷土料理。ふたりは「まだ先は長く、復興には時間がかかりますが、三陸の良さを発信し続けていきます」と、笑顔で前を向く。



市区議会議員被贈呈者と来賓との記念撮影

「平成30年度都道府県議会議員及び市区町村議会議員総務大臣感謝状贈呈式」が、10月26日都内で挙行された。

感謝状は、地方議会議員として通算35年以上在職し、地方自治の発展に功労があったと認められる者に贈呈される。本年度の被贈呈者は187人うち、市区議会議員は116人(左掲)。

式典では、石田真敏総務大臣の代理として、鈴木淳司総務副大臣から式辞が述べられた後、感謝状並びに記念品贈呈において、市区議会議員を代表し、谷津邦夫三笠市議会議長が受領した。

続いて来賓祝辞、山田一仁会長(札幌市議会議長)はじめ来賓の紹介や祝電披露などが行われ、被贈呈者代表から謝辞があった。

市区議会議員の被贈呈者

▽武市憲一(札幌)▽斎藤

明男(函館)▽福島恭二(同)▽吉田崇仁(同)▽杉山允孝(旭川)▽佐藤潤(室蘭)▽工藤英治(網走)▽松井邦男(芦別)▽赤坂伸一(江別)▽谷津邦夫(三笠)▽長原徳治(石狩)

市区議会議員116人に感謝状 総務大臣感謝状贈呈式



式辞を述べる鈴木総務副大臣

▽坂本美洋(八戸)▽沢目正俊(十和田)▽鈴木禮子(盛岡)▽曾我ミヨ(塩竈)▽柄目孝治(角田)▽藤原益栄(多賀城)▽三浦秀雄(由利本荘)▽吉田仁吉郎(北秋田)▽稲田修(仙北)▽山村明(米沢)▽樫村弘(いわ



代表受領する谷津三笠市議長

き)▽齋藤廣二(二本松)▽渡邊忠夫(本宮)▽伊藤充朗(水戸)▽久松猛(土浦)▽中村安雄(常総)▽利根川英雄(牛久)▽安雄三(ひたちなか)▽中山勝二(宇都宮)▽平塚英教(那須烏山)▽荒川廣(所沢)▽稲葉春男(三郷)▽高田克彦(鶴ヶ島)▽塚越洋一(ふじみ野)▽福永洋(千葉)▽海津勉(市川)▽関根和子(船橋)▽佐藤多美男(木更津)▽佐藤勝次郎(柏)▽本池奈美枝(同)▽伊東幹雄(八千代)▽鶴田剛(君津)▽柏崎のり子(富里)▽平松大建明(香取)▽押田満理子(中央区)▽田中伸宏(台東)▽坂下修(墨田)▽白石忠夫(江東)▽鳥飼秀夫(荒川)



紹介を受ける山田会長

▽藤沼壯次(足立)▽針谷幹夫(同)▽倉澤英武(葛飾)▽瀨端勇(江戸川)▽元木勇(調布)▽鈴木悦夫(狛江)▽関田貢(東大和)▽折戸小夜子(多摩)▽浅野高司(西東京)▽田野井一雄(横浜)▽諸星光(秦野)▽松本春男(綾瀬)▽丸山孝博(胎内)▽津本二三男(射水)▽鵜飼静雄(本美)▽美谷添生(郡上)▽望月厚司(静岡)▽前嶋貞一(富士)▽大庭通嘉(袋井)▽荻野利明(湖西)▽内田謙(春日井)▽前田修(西尾)▽岡覚(犬山)▽中島牧子(知立)▽岩本一三(あま)▽南靖久(尾鷲)▽森脇徹(高島)▽鏝田明(米原)▽北山忠生(京都)▽富喜久夫(同)▽浅井厚徳(宇治)▽水谷修(同)▽

改発康秀(大阪)▽今口千代子(岸和田)▽倉沢恵(吹田)▽永原康臣(富田林)▽前島浩一(神戸)▽竹中隆一(姫路)▽遠藤恒司(明石)▽松木義昭(芦屋)▽新内竜一郎(伊丹)▽比良幸男(松江)▽楠木忠司(岡山)▽碓井法明(広島)▽児玉光禎(同)▽檀上正光(尾道)▽近藤榮次郎(下関)▽大西明子(岩国)▽古谷幸男(周南)▽大浦澄子(高松)▽東山光徳(坂出)▽上田博之(善通寺)▽泉雄二(宇和島)▽山本儀夫(八幡浜)▽大山政司(同)▽中澤はま子(高知)▽高瀬春美(田川)▽奥村修計(長崎)▽市岡博道(佐世保)▽松井大助(島原)▽馬場勝郎(同)▽川田典秀(南島原)▽江藤正行(熊本)▽徳留八郎(都城)▽梶原正憲(鹿屋)▽諏訪昌一(南さつま)【感謝状贈呈者名簿順】※は元職※※は逝去された方